

阿蘇のかけはし だいごう 第6号

れいわ ねん がつはっこう あそし とくべつしえんれんけいきょうぎかい
令和5年2月発行 阿蘇市特別支援連携協議会

「阿蘇のかけはし」第6号では、①特別支援教育とは、②多様な学びの場、
③自立活動ってなあに？、④研修会報告の4つの記事を掲載します。なお、第1
号～第5号の啓発資料も、阿蘇市内の小中学校のホームページから見る事が
できます。こちら是非、御覧ください。



(QRコード) →

1 特別支援教育とは？

がくしゅうめん こうどうめん きょういくじょうとくべつ しえん ひつよう こ
学習面・行動面で教育上特別な支援を必要とする子どもたち

ひとりひとり きょういくてき おう しえん おこな
一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行っていくことです。

しゅうちゅう
集中できない

いちばんこま
一番困っているのは
ほんにんじしん
本人自身です



かんが さき うご
考えるより先に動く

じぶん きも
自分の気持ちを
つた 伝えるのが難しい

しんばい たね いっしょ かんが
心配の種を一緒に考えましょう。

●その子の困り感は、

どんなことか・どんな場面で持つのか

●その子の困り感は、

ほうほう せつ かた けいげん かいしょう
どんな方法・接し方で軽減・解消できるのか

阿蘇市特別支援連携協議会とは？

はったつしょう ふく しょう ひとりひとり きょういくてき おう
発達障がいを含むすべての障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた
てきせつ しどう しえん おこな かんけいきかん れんけい ちいき きょういくてきしえんたいせい
適切な指導や支援を行うため、関係機関が連携し、地域における教育的支援体制を
つく あ とくべつしえんきょういく かか きょういん せんもんせい こうじょう かんけいしゃ
作り上げるとともに、特別支援教育に関わる教員などの専門性の向上と関係者への
りかい けいはつ はか そしき こ 子どもと支援者の心と心、子どもたちを支援する人たちの
こころ こころ あそ ひろ おおぞら ひろ ひろ ねが こ
心と心が阿蘇に広がる大空のように広がり、つながってほしいという願いを込めて
「阿蘇のかけはし」を作成しました。

2 多様な学びの場

障がいのある人の進学・就労・社会参加のために一人一人の特別な教育的ニーズに応じた多様な学びの場があります。



① 通常の学級

集団での授業を行います。どの子どもたちにも分かりやすい授業づくりに努めます。また、支援員を配置するなどして、個別の支援も必要に応じて行っています。

② 通級による指導（言語障がい、情緒障がい、難聴、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等）

通常の学級に在籍して教科等の授業を受けながら、週1～2回程度、自立活動の学習を個別に行っています。在籍する学校に設置されていない場合は、他校に通うこともあります。

③ 特別支援学級（知的障がい、肢体不自由、病弱、身体虚弱、弱視、難聴、自閉症・情緒障がい等）

障がいのある子どもたちのために小・中学校・義務教育学校に設置された学級です。

④ 特別支援学校（小学部・中学部）

障がいのある子どもたちの自立を目的に設置された学校です。小・中学校で学ぶ内容に加え、自立活動の学習を行います。

小学校段階では、どんな内容を学習しているのかな？

学びの場		小学校での内容	
通常学級		各教科等	
通級による指導		自立活動	
特別支援学級	自・情	各教科等 or 各教科等 (下学年代替)	自立活動
	知的	各教科等 or 各教科等 (下学年代替) or 各教科等 (知的障害特別支援学校における各教科の内容)	自立活動
特別支援学校		各教科等を合わせた指導 or 各教科等 (知的障害特別支援学校における各教科の内容)	自立活動

3 自立活動ってなあに？

子ども達は、障がいによって学習場面や日常生活で様々なつまづきや困難が生じることがあります。そのため、一人一人の障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となります。それが「自立活動」です。

この「自立活動」は、特別支援学校に特別に設けられた指導領域であり、小学校や中学校の特別支援学級でも行うことができます。

どんな内容なの？

指導内容には、6つの区分があります。それは、「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」です。

一人一人の子どもの実態や保護者の願いをもとにして、6区分の中から内容を選びます。内容によっては、それぞれ一人ずつ行ったり、少人数で行ったりします。

(例1) 「心理的な安定」 小学2,3年生対象

「こんなときどうする？～自分に合ったクールダウンの方法を見つけよう～」

めあて イライラをコントロールする方法を考えよう。

- ① 自分が怒ったり、イライラしたりしたときのことをふり返ります。
- ② イライラの時間を短くする方法を考え、みんなで考えを出し合います。



- ③ ロールプレイングで試して、自分に合う方法を見つける。

〈授業後〉日常場面で繰り返し、試します。

(例2) 「身体の動き」 全学年対象

「いろいろな動きにチャレンジしよう」

めあて いろいろな課題にチャレンジして、体幹をきたえよう。

※授業の最初の10分ほどで行い、他の内容と組み合わせて行うことが多いです。

体幹を鍛えることで、姿勢保持ができるようになるだけでなく、疲れにくくなり、集中力が持続しやすくなります。上記のイラストのような直接的なトレーニングだけでなく、しっぽ取りゲームやケンケンパなどの遊びでも楽しみながら体幹を鍛えることができます。



4 研修会報告

インクルーシブ教育の実現には、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行う必要があるため、「阿蘇市内小・中・高等学校の特別支援教育コーディネーター及び希望する教職員を対象に、資質の向上及び指導・支援の充実を図る」ことを目的に毎年研修会を実施しています。今年度はオンラインでの開催でした。阿蘇温泉病院で作業療法士をされている西岡 玖美様に講師を依頼し、「視知覚」の発達が未熟な子どもへの支援の方法について講話をしていただきました。



はったつそうだん かん おも ないよう
発達相談に関する主な内容

- ・手先が**不器用**で学習道具を上手に使えない。
- ・運動が**苦手**、また授業中や食事**中の姿勢が悪い**。
- ・文字の読み書きや黒板の字を**書き写すことが苦手** など。



み ちから そだ
視る力を育てるために

- ・ジャンプして空中でものをとったり、お盆に何かものに乗せて障害物をよけて歩いたりすることで**視覚機能を高める**。
- ・**ビジョントレーニング**で眼球運動を行い、眼球周りの筋肉を鍛え、見たいものにピントを合わせる力をつける。
- ・教室の席を前中央にしたり、文字を指でなぞりながら読んだりするなど**環境調整**に配慮する。



けんしゅうかい えんしゅう まじ こま かん
 研修会では、演習を交えながら困り感のある子どもの気持ちを体験したり適切な支援の方法を学んだりすることができました。今後、一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援ができるよう研修の充実を図っていきたく考えます。